

平成 25 年度 学校保健統計調査結果報告（広島県分）の概要について

平成 26 年 3 月 31 日
統 計 課

1 調査の概要

この調査は、幼児、児童及び生徒の発育状態及び健康状態を明らかにすることを目的に文部科学省が昭和 23 年から毎年実施しているものです。平成 25 年 4 月 1 日から平成 25 年 6 月 30 日までの間に、学校保健安全法に基づき実施した健康診断結果により調査しています。

この速報は、広島県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満 5 歳から満 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部を抽出し、発育状態調査と健康状態調査の 2 調査について、平成 25 年度の基本的事項をまとめたものです。

2 調査結果の主な特徴

- (1) 身長（平均値）は、男子及び女子の全ての年齢において全国平均を下回りました。
- (2) 疾病・異常の被患率は、幼稚園、小学校及び中学校では「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、高等学校では「裸眼視力 1.0 未満」の者の割合が最も高くなっています。
- (3) 「むし歯（う歯）」の者の割合は、中学校を除く各学校段階において前年度を下回っており、全国との比較では、いずれの学校段階においても全国の割合を下回っています。

3 調査結果の概要

(1) 発育状態調査

ア 身長

身長（平均値）は、前年度比較において、男子は 7 歳、9 歳、11 歳、15 歳及び 16 歳について増加し、また、女子については、6 歳、8 歳、9 歳、11 歳、12 歳、14 歳、16 歳及び 17 歳のそれぞれについて増加しました。

さらに、親世代である 30 年前の昭和 58 年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は 12 歳で 3.1cm、女子は 9 歳及び 12 歳で 1.1cm、それぞれ親世代より高くなっています。（表 1）

表 1 年齢別身長の平均値 (単位：cm)

校種・年齢	男 子						女 子						
	平成 25 年度				昭和 58 年度		平成 25 年度				昭和 58 年度		
	A		B		A		B						
	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	110.0	△ 0.1	110.4	△ 0.4	110.1	△ 0.1	109.1	△ 0.2	109.6	△ 0.5	108.9	0.2
小学校	6歳	116.1	△ 0.3	116.6	△ 0.5	115.6	0.5	114.9	0.3	115.6	△ 0.7	115.5	△ 0.6
	7歳	122.0	0.3	122.4	△ 0.4	121.3	0.7	121.2	△ 0.1	121.6	△ 0.4	120.4	0.8
	8歳	127.4	△ 0.2	128.2	△ 0.8	126.7	0.7	126.7	0.2	127.3	△ 0.6	126.3	0.4
	9歳	133.3	0.3	133.6	△ 0.3	131.6	1.7	133.0	0.6	133.6	△ 0.6	131.9	1.1
	10歳	138.1	0.0	139.0	△ 0.9	136.8	1.3	138.9	△ 0.2	140.1	△ 1.2	138.0	0.9
中学校	11歳	144.0	0.1	145.0	△ 1.0	142.5	1.5	146.1	0.5	146.8	△ 0.7	145.1	1.0
	12歳	152.1	△ 0.2	152.3	△ 0.2	149.0	3.1	151.4	0.2	151.8	△ 0.4	150.3	1.1
	13歳	158.6	△ 0.2	159.5	△ 0.9	157.1	1.5	154.3	△ 0.1	154.8	△ 0.5	153.6	0.7
高等学校	14歳	164.6	△ 0.2	165.0	△ 0.4	162.9	1.7	156.0	0.2	156.5	△ 0.5	155.7	0.3
	15歳	167.0	0.1	168.3	△ 1.3	166.6	0.4	156.7	△ 0.6	157.0	△ 0.3	156.6	0.1
	16歳	168.9	0.6	169.9	△ 1.0	168.6	0.3	157.2	0.7	157.6	△ 0.4	156.9	0.3
	17歳	169.8	0.0	170.7	△ 0.9	169.6	0.2	157.6	0.1	158.0	△ 0.4	156.9	0.7

(注) は前年度より増加した値を示す。

イ 体 重

体重(平均値)は、前年度比較において、男子は5歳、7歳、10歳、11歳、15歳及び17歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、5歳、6歳、8歳、9歳、11歳、12歳、15歳及び16歳のそれぞれについて増加しました。

また、親世代である30年前の昭和58年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は12歳で2.7kg、女子は12歳で2.0kg、それぞれ親世代より増加しています。(表2)

表2 年齢別体重の平均値 (単位: kg)

校種・年齢		男 子						女 子					
		平成25年度			昭和58年度			平成25年度			昭和58年度		
		A		全 国	全国差	B		A		全 国	全国差	B	
		広島県	前年差			広島県	(A-B)	広島県	前年差			広島県	(A-B)
幼稚園	5歳	18.8	0.1	18.9	△ 0.1	18.8	0.0	18.5	0.1	18.6	△ 0.1	18.4	0.1
小学校	6歳	21.1	△ 0.4	21.3	△ 0.2	20.8	0.3	20.6	0.1	20.9	△ 0.3	20.5	0.1
	7歳	23.7	0.2	23.9	△ 0.2	23.3	0.4	23.3	△ 0.1	23.5	△ 0.2	22.6	0.7
	8歳	26.9	0.0	27.1	△ 0.2	25.9	1.0	26.0	0.3	26.4	△ 0.4	25.5	0.5
	9歳	30.0	△ 0.2	30.4	△ 0.4	28.3	1.7	30.1	0.8	30.0	0.1	28.5	1.6
	10歳	33.2	0.4	34.3	△ 1.1	31.9	1.3	33.1	△ 0.5	34.0	△ 0.9	32.6	0.5
中学校	11歳	37.7	0.8	38.3	△ 0.6	35.1	2.6	38.4	0.7	39.0	△ 0.6	37.7	0.7
	12歳	43.5	△ 0.5	43.9	△ 0.4	40.8	2.7	43.8	0.2	43.7	0.1	41.8	2.0
	13歳	48.3	△ 0.5	48.8	△ 0.5	46.8	1.5	46.8	△ 0.4	47.1	△ 0.3	46.0	0.8
高等学校	14歳	53.9	△ 0.1	54.0	△ 0.1	51.8	2.1	49.4	△ 0.1	49.9	△ 0.5	48.9	0.5
	15歳	58.2	0.1	58.9	△ 0.7	56.6	1.6	51.6	0.7	51.4	0.2	51.4	0.2
	16歳	59.7	△ 0.3	61.0	△ 1.3	58.4	1.3	52.5	1.4	52.5	0.0	51.7	0.8
	17歳	62.3	0.9	62.8	△ 0.5	60.3	2.0	52.7	△ 0.5	52.9	△ 0.2	52.1	0.6

(注) は前年度より増加した値を示す。

ウ 座 高

座高(平均値)は、前年度比較において、男子は7歳、9歳、11歳及び17歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、6歳、8歳、9歳、11歳及び16歳のそれぞれについて増加しました。

さらに、親世代である30年前の昭和58年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は14歳で1.4cm、女子は9歳で0.8cm、それぞれ親世代より高くなっています。(表3)

表3 年齢別座高の平均値 (単位: cm)

校種・年齢		男 子						女 子					
		平成25年度			昭和58年度			平成25年度			昭和58年度		
		A		全 国	全国差	B		A		全 国	全国差	B	
		広島県	前年差			広島県	(A-B)	広島県	前年差			広島県	(A-B)
幼稚園	5歳	61.7	△ 0.1	62.0	△ 0.3	62.4	△ 0.7	61.3	△ 0.1	61.5	△ 0.2	61.9	△ 0.6
小学校	6歳	64.6	△ 0.3	64.8	△ 0.2	64.9	△ 0.3	64.0	0.1	64.4	△ 0.4	64.7	△ 0.7
	7歳	67.5	0.2	67.6	△ 0.1	67.5	0.0	67.2	0.0	67.3	△ 0.1	67.1	0.1
	8歳	70.0	△ 0.1	70.2	△ 0.2	70.0	0.0	69.7	0.1	69.9	△ 0.2	69.5	0.2
	9歳	72.7	0.2	72.6	0.1	71.9	0.8	72.8	0.4	72.8	0.0	72.0	0.8
	10歳	74.6	0.0	75.0	△ 0.4	74.2	0.4	75.3	△ 0.1	75.8	△ 0.5	74.9	0.4
	11歳	77.3	0.1	77.6	△ 0.3	76.5	0.8	78.9	0.1	79.3	△ 0.4	78.5	0.4
中学校	12歳	80.9	△ 0.4	81.2	△ 0.3	79.8	1.1	82.1	0.0	82.1	0.0	81.4	0.7
	13歳	84.5	△ 0.1	84.8	△ 0.3	83.6	0.9	83.8	△ 0.1	83.8	0.0	83.5	0.3
	14歳	87.9	△ 0.2	88.1	△ 0.2	86.5	1.4	84.8	0.0	84.9	△ 0.1	84.6	0.2
高等学校	15歳	89.9	△ 0.2	90.3	△ 0.4	89.4	0.5	85.6	△ 0.2	85.5	0.1	85.2	0.4
	16歳	91.1	△ 0.1	91.4	△ 0.3	90.3	0.8	85.5	0.2	85.8	△ 0.3	85.3	0.2
	17歳	91.7	0.1	92.0	△ 0.3	90.9	0.8	85.7	△ 0.2	85.9	△ 0.2	85.3	0.4

(注) は前年度より増加した値を示す。

(2) 健康状態調査

ア 主な疾病・異常の被患率順位

平成 25 年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、幼稚園、小学校及び中学校では「むし歯(う歯)」の者(処置完了者を含む。以下同じ)が、高等学校では「裸眼視力 1.0 未満」の者が 1 位となっています。小学校ではこれに次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」となっており、高等学校では「むし歯(う歯)」が続いています。(表 4)

表 4 主な疾病・異常の被患率順位

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	34.0	むし歯(う歯)	51.1	むし歯(う歯)	38.3	裸眼視力 1.0未満の者	62.3
2	耳疾患	11.0	裸眼視力 1.0未満の者	27.7	鼻・副鼻腔疾患	9.3	むし歯(う歯)	48.8
3	鼻・副鼻腔疾患	7.0	鼻・副鼻腔疾患	14.0	歯列・咬合	6.4	鼻・副鼻腔疾患	9.5
4	眼の疾病・異常	5.5	眼の疾病・異常	6.7	歯垢の状態	5.3	歯垢の状態	7.4
5	アトピー性皮膚炎	3.7	歯列・咬合	4.6	眼の疾病・異常	4.5	歯肉の状態	5.7
6	ぜん息	3.3	耳疾患	4.5	歯肉の状態	4.5	歯列・咬合	4.7
7	歯列・咬合	1.9	歯垢の状態	3.9	心電図異常	3.5	眼の疾病・異常	4.0
8	口腔咽喉頭疾患・異常	1.9	ぜん息	3.2	せき柱・胸郭	3.3	蛋白検出の者	3.2
9	その他の皮膚疾患	0.8	アトピー性皮膚炎	2.9	蛋白検出の者	3.2	心電図異常	2.9
10	歯垢の状態	0.7	歯肉の状態	2.6	アトピー性皮膚炎	3.2	アトピー性皮膚炎	2.3

(注) 幼稚園及び中学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため、又は、標準誤差が 5%以上等のため公表されていない。

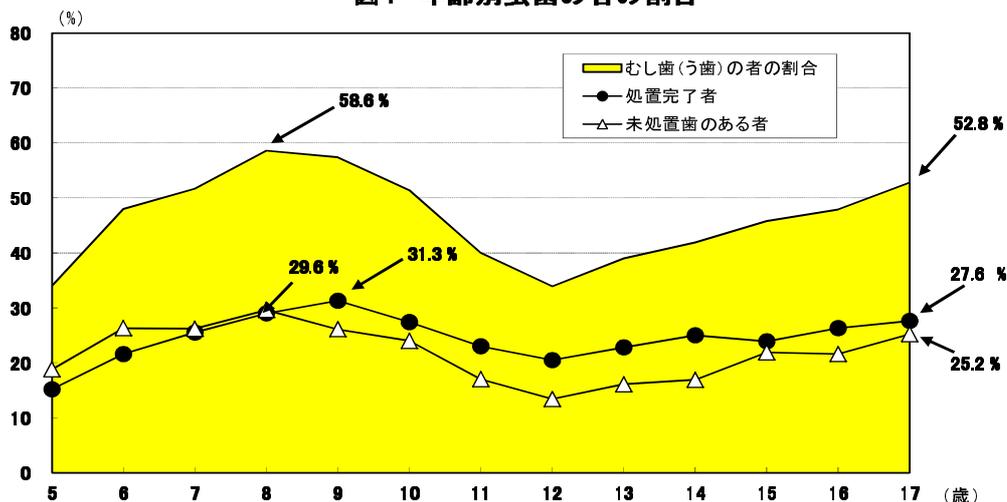
イ むし歯(う歯)の状況

(1) 年齢別の推移

平成 25 年度の「むし歯(う歯)」の者の割合は、幼稚園が 34.0%、小学校 51.1%、中学校 38.3%、高等学校 48.8%となっています。

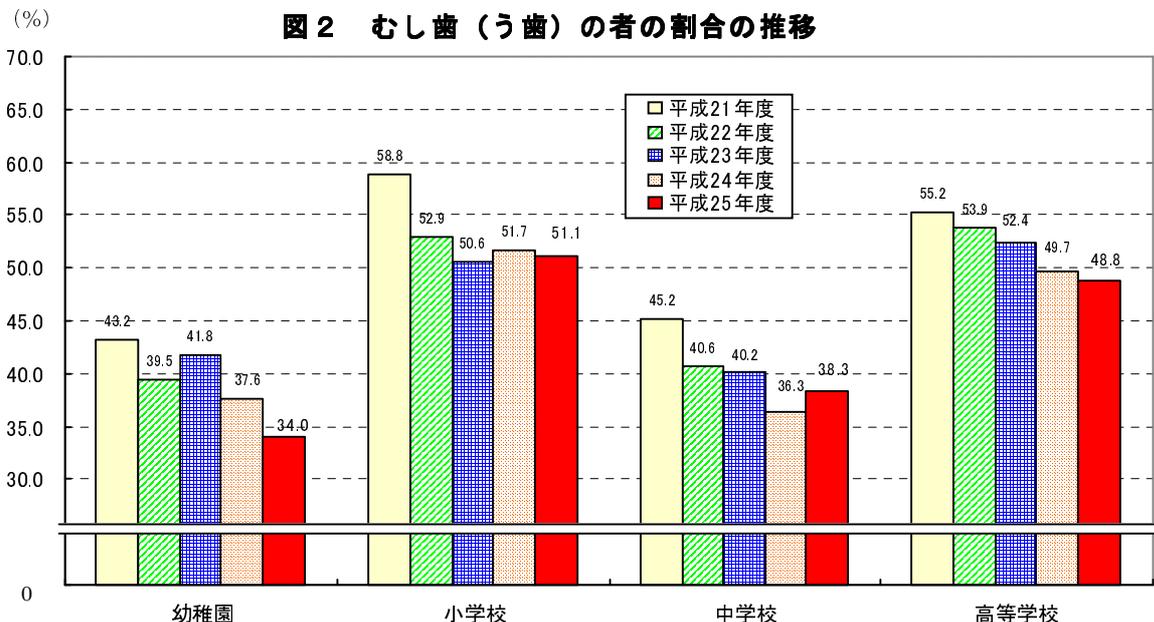
「むし歯(う歯)」の者の割合を年齢別にみると 8 歳が 58.6%と最も高くなっています。また、9 歳以降では、処置完了者の割合が未処置歯のある者の割合を上回っています。(図 1)

図 1 年齢別虫歯の者の割合



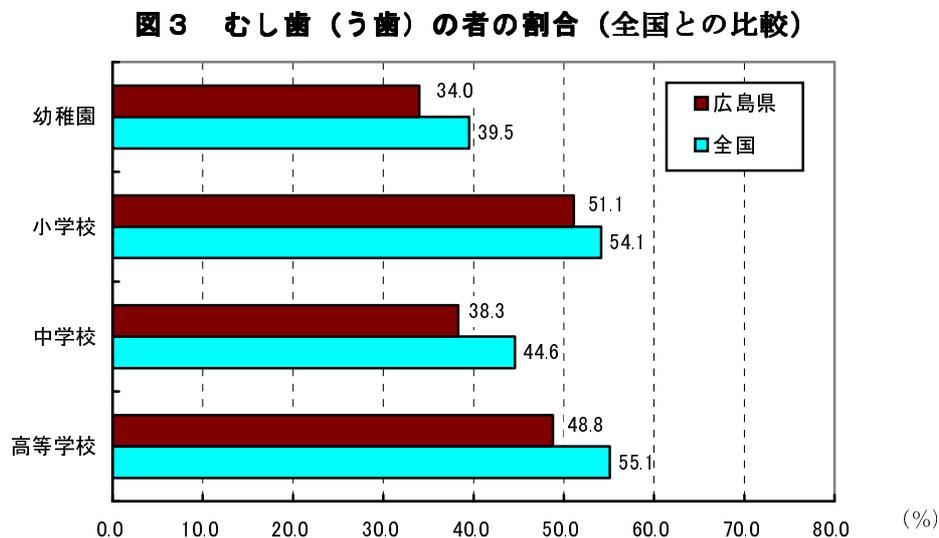
(2) 時系列の推移

平成25年度の「むし歯（う歯）」の者の割合は、中学校を除く学校段階で前年度を下回っています。また、平成21年度以降の推移をみると、いずれの学校段階においても低下傾向にあります。（図2）



(3) 全国との比較

「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても全国の割合を下回っており、特に中学校及び高等学校では6.3ポイントの差があります。（図3）



問い合わせ先
 広島県総務局統計課 消費経済・教育統計グループ
 電話 082-513-2534（ダイヤルイン）